LWV-A

消耗部品の交換とお買い求めについて

飯器パッキン・おかず容器パッキンは消耗部品です。
6カ月～1年を目安にご確認いただき、汚れが目立ってきたり、ゆるくなってきたら、交換してください。（交換用のおかず容器パッキン2個が、商品に同梱されています。）
お買い求めの際は、お買い上げの販売店、または「連絡先」に記載のタイガーお客様ご相談窓口までご相談ください。

仕様

材料の種類	保温容器	外側	ステンレス鋼（アクリル樹脂塗装）	
		内側	ステンレス鋼	
	飯器・おかず容器・おかず容器ふた		ポリプロピレン	
	飯器ふた		ポリプロピレン（ポリスチレンフォーム内蔵）	
耐熱・耐冷温度	飯器・おかず容器		140度	-20度
	飯器ふた		90度	-20度
	おかず容器ふた		125度	-20度

※各容器は、食品衛生試験に合格したポリプロピレン樹脂を使用しています。

※本書に記載の意匠、仕様および部品は性能向上のために一部予告なく変更することがあります。

TIGER
タイガー魔法瓶

品番
LWV-A型

まほうびん弁当箱

ポーチつき

取扱説明書

このたびは、お買い上げまことにありがとうございます。
ご使用になる前に、この取扱説明書を最後までお読みください。
お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られるところに必ず保管してください。



ご意見をお寄せください。
http://www.tiger.jp/

安全上のご注意

乳幼児の手の届くところには置かない。
また、いたずらに注意する。
やけど・けがなどのおそれ。



コンロやストーブなど、火気のそばに置かない。
やけど・変形・変色の原因。

生もの・乳製品などは入れない。
変質・腐敗の原因。

火を通したおかずは、冷ましてから入れる。
変質・腐敗の原因。

ごはんを保温容器に直接入れない。
サビの原因。

スープ類を入れない。
内容物がもれるおそれ。

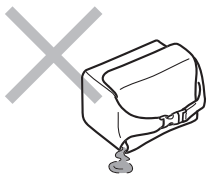
飲食物以外は入れない。

飲食物の保温・保冷以外に使わない。

6時間以内に一度に食べきる。
変質・腐敗のおそれ。

保温容器は、電子レンジに入れて加熱しない。
感電や異常動作して、けがをするおそれ。

横置きしない。
内容物がもれる原因。



倒したり、落としたり、ぶつけたり、強い衝撃を与えない。
やけど・変形・サビ・塗装はがれの原因。また、内容物が飛び散るおそれ。

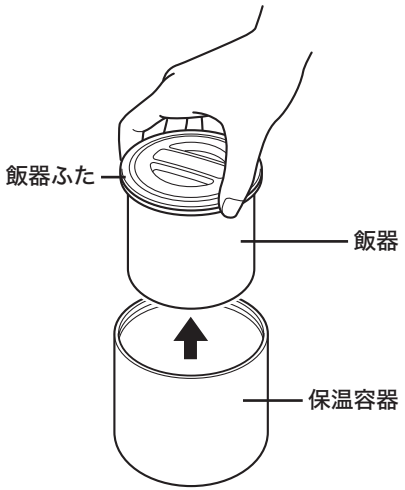
ポーチを振りまわさない。
人や物に当たって、けがのおそれ。

使いかた

1 飯器を取り出す。

はじめて使うとき

- 飯器・飯器ふた・おかず容器・おかず容器ふたを洗う。→P.5
- 交換用のおかず容器パッキンは、なくさないように保管する。



2 保温容器・飯器に熱湯を少量入れ、1 ～ 2分温める。

- 温まったら、お湯をすて、水分を充分にふき取る。
- おかず容器は温めない。



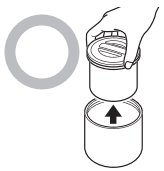
3 飯器に熱いごはんを入れ、保温容器にセットする。

ごはん以外（スープ類など）は入れない。

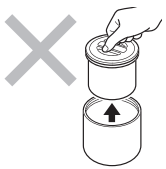


飯器の取り出しかた

図のように持って取り出す。



ふたただけを持って取り出さない。（落下するおそれ）

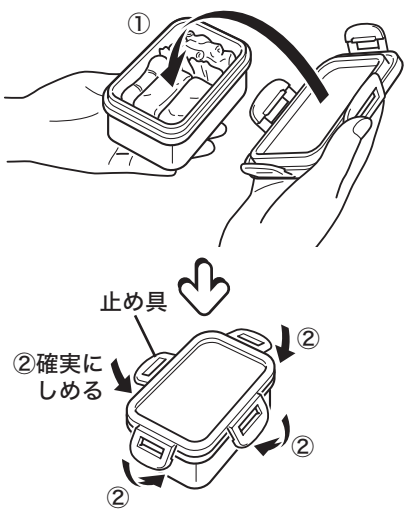


4 おかず容器におかずを入れる。

- ●火を通したおかずは、冷ましてから入れる。
- ●においの強いもの、食酢、色素の濃いもの（ホウレン草・たくあん・しそなどの有色野菜）は、ラップフィルムなどに包んで入れる。

ご注意

止め具を無理に曲げたり、折りたたまない。
破損のおそれ。



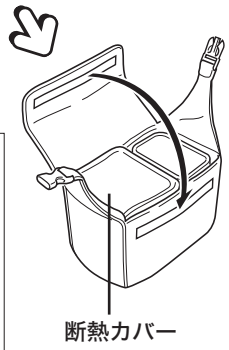
5 ポーチに入れる。

- ●ぬれている状態や、上下逆にして入れない。
- ●飯器ふたの上に、ポーチの断熱カバーをかぶせる。

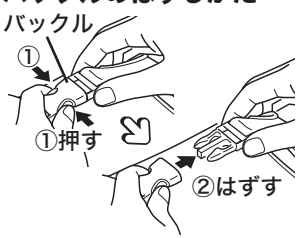
ご注意

左側（断熱カバー側）に、おかず容器を入れない。おかずが変質・腐敗したり、飯器の保温効果が下がる原因。





バックルのはずしかた



バックルのつけかた



電子レンジでの温めかた

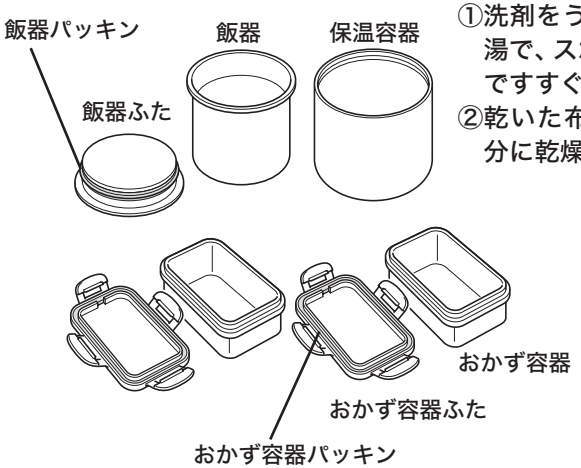
おかず容器・飯器のふたをはずし、電子レンジで加熱する。

ご注意

- ●ふたをつけたままで加熱しない。
- ●保温容器は、電子レンジに入れて加熱しない。
- ●おかず容器・飯器がカラの状態で加熱しない。
- ●油分、糖分の多い食品を長時間加熱しない。
- ●複合電子レンジのオーブン・グリル機能で加熱しない。（他の料理でオーブン・グリルを使った後に加熱する場合は、庫内が冷めてから使う。）

お手入れのしかた

◆使用後は、必ずその日のうちにお手入れする。
◆洗剤は、台所用合成洗剤（食器用・調理器具用）を使う。
◆スポンジ・布はやわらかいものを使う。



①洗剤をうすめた水またはぬるま湯で、スポンジを使って洗い、水ですすぐ。
②乾いた布で水分をふき取り、充分に乾燥させる。

ポーチ

布をお湯にひたし、かたくしぼってふく。（丸洗いしない。）

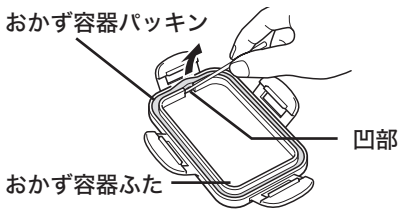
ご注意

●シンナー類・クレンザー・漂白剤・化学ぞうきん・金属たわし・ナイロンたわしなどは使わない。
●食器洗浄機や食器乾燥器などを使ったり、煮沸しない。
●おかず容器パッキン・飯器パッキンは必ず取りつける。→**P.6**
●長期間使わないときは、充分に汚れを落とし、乾燥させる。

おかず容器パッキンのはずしかた・つけかた

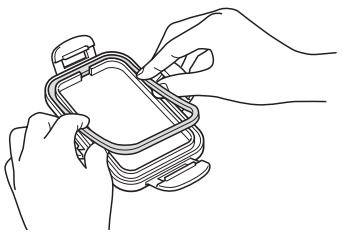
はずしかた

先が細くやわらかい棒（つまようじなど）を、凹部に差し込みはずす。（金串などは使わない。）

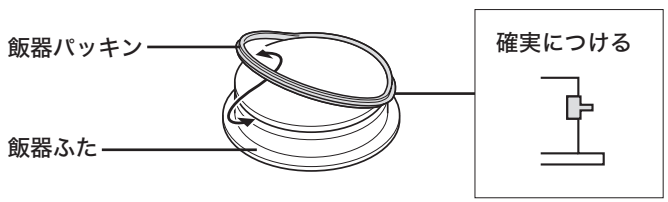


つけかた

溝に確実にはめ込む。



飯器パッキンのはずしかた・つけかた



「サビのような赤い斑点」や「ザラザラしたもの」が保温容器の内側に付着したときのお手入れ

①クエン酸（約10g）をぬるま湯でうすめて保温容器に入れる。
②2 ～ 3時間後にスポンジできれいに洗い、水で充分にすすぐ。
③乾いた布で水分をふき取り、充分に乾燥させる。